

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3650180189		
法人名	医療法人 敬老会		
事業所名	グループホーム フォレスト		
所在地	徳島県徳島市八万町大野7-1		
自己評価作成日	令和2年2月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和3年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方に毎日笑顔で生活していただけるよう職員も笑顔と明るい挨拶を心掛けている。利用者・ご家族が気軽に要望が言えたり相談が出来る様な雰囲気作りを大切にしている。個々の能力を発揮して生きがいを持って生活して頂けるように好きな事・得意な事を知り、活かす事が出来る機会を沢山作れるように努めている。退居された方のご家族がボランティアとして毎週合唱クラブを実施して下さり、入利用者の方にとって楽しい時間となっている。地域の民生委員・防災関係の方等と、運営推進会議や地域の防災イベント等お互いの活動に参加する関係性が築けてきている。協力病院と密な連携が取れており、夜間でも安心して相談したりアドバイスを貰える関係が出来ている。同一敷地内に医療・福祉・保健施設があり、状態の変化があった時にも馴染みの環境の中で対応する事が出来る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、幹線道路から少し入った河川沿いに位置している。敷地内に、同一法人が運営する医療機関や他サービス事業所があり、日ごろの支援や医療面等での連携体制を整備している。理念は、法人理念と事業所理念の2つを掲げ、ミーティング等の機会に職員間での共有化を図りつつ、日ごろの支援につなげている。地域との交流も盛んに取り組み、お祭りの際の神輿が玄関前まで来てくれることもある。新型コロナウイルス感染症の流行下においても、利用者とともに制作した作品を近隣小学校の生徒が作った作品と交換するなど、可能な範囲での交流に努めている。年2回、防災訓練を実施する際は、地域の協力も得つつ、模擬消火器を活用した消火訓練を行うなど、実践的に取り組んでいる。また、発災時にも継続してサービスを提供することができるよう“BCP”を策定し、災害に備えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1番街 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に管理者より理念について説明を行い、理解・共有が出来るように努めている。毎朝の申し送り時には、業務に取りかかる前に出勤職員全員で理念と行動規範を唱和している。	事業所では、開設当初から、独自の理念を掲げている。理念を朝礼時に唱和したり、事業所内に掲示したりして、職員間での共有化を図っている。また、パンフレット等にも理念を記載し、利用者や家族、他の事業所等に向けた広報・周知も行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町民文化祭への参加、地域の保育所との毎月の交流、秋祭りの御神輿巡行等、地域との関わりは年間を通じて実施している。グループで開催しているふれあい祭りは地域の方と触れ合う良い機会となっている。。	事業所では、地域のお祭りへの参加や近隣保育所との交流などにより、地域との交流を図っている。感染症(コロナ等)の流行下においては、保育所と作品の交換を行ったり、感染症対策を行ったうえで神輿の来訪を受け入れたりするなど、工夫しつつ取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日曜市で月1回介護相談のブースを開設し、フォレスト職員も参加している。来年度には、地元の中学生の職業体験をグループで受け入れる予定である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加されたご家族や地域の方・地域包括支援センターからの意見や要望等を職員で検討し、担当者会議で取り上げプランに盛り込むなど、サービスの質の向上につながるよう努めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、利用者の現況や研修内容の報告等を行い、相互に意見交換を行っている。感染症の流行下では、書面を郵送している。出された意見等は、職員間で回覧し、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	要介護認定申請などで市役所に出向いた際には、担当職員に疑問点を質問してアドバイスを頂いたりしてコミュニケーションを取っている。	事業所では、毎月、市の担当窓口を訪問し、事業所の現況等を報告している。報告時には、制度の疑問点等について相談し、助言を得ている。感染症の流行下においては、電話等で相談するなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止についての指針とマニュアルを定め、定期的に委員会と研修会を開催している。「身体拘束となる具体的な行為」を行わない為に自分達で出来る工夫を考え、実行するよう努めている。	事業所では、3か月に1回、身体拘束廃止委員会を開催し、拘束の指針やマニュアル等を整備している。年2回、研修会も開催し、職員間の周知・徹底を図っている。日中は玄関を開放し、利用者が拘束感を感じることをないよう支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度はグループ全体で、管理者も含めた全職員が参加する虐待防止についての研修会を実施した。他事業所の職員と話し合い講師の話を聞く事で、自分の介護を見つめ直す機会を持つことが出来た。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1番街 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回は研修会を実施し、日常生活自立支援事業・後見人制度について学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約書および重要事項説明書をもって十分な時間をかけて説明を行っている。改定がある時には、重要事項説明書の変更を文書にて報告、質問があれば納得して頂けるよう確りと説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは日頃から話しやすい雰囲気を作り思いをくみ取るように努めている。家族の面会時には職員から声をかけ、遠方の家族とは電話やメールを活用し、頂いた意見を業務改善に繋げている。	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者が意見や要望等を出しやすい雰囲気づくりに努めている。感染症の流行下においては、電話やメール、オンラインなどを活用し、家族等から意見を得るよう努めている。聞き取った意見等は、申し送りノートなどで共有化を図り、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りやミーティング時に意見を聞くようにしている。新人職員には個別に話を聞くようにしている。出された意見は検討し、前向きに反映させている。	管理者は、毎朝の申し送りや月1回の職員ミーティングなどの際に、職員から意見や提案等を聞く機会を設けている。日ごろの支援においても、職員が意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。代表者が事業所へ来訪した際に、職員が直接話す機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年末には業務において特に優秀であった職員は「優良優秀職員」として表彰している。また各職員の得意分野で力を発揮出来るような業務を割り当てたり、意見を取り上げたりする事で労働意欲向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修では職員が講師となり、互いの資質向上に努めている。個々の職員に必要な外部研修に参加出来るよう勤務割の工夫等を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度実施した虐待についての研修会には、他施設の介護職員も参加され、共に学び意見交換をする事でお互いに良い刺激となり、サービスの質の向上に繋がった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1番街 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず訪問面接を行い、現在の悩みや不安などを直接本人からお聞きするようになっている。入居されて1ヶ月頃にゆっくりとお話する時間を持ち、困っていることなど無いかお聞きしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時には十分に時間をかけ説明を行い、質問や要望等にも耳を傾けるようになっている。入居後も面会時には職員から声をかけ、話しやすい雰囲気作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のケアプランを立てる前に本人・家族からしっかりと話を聞き、内容によっては他のサービス利用の検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「生きがいを見つけ共に育む」という理念に基づき日常生活の中で共に行うこと、支え合うことを実践している。野菜作り・洗濯畳み・片付け等を一緒に行ったりテレビや新聞の話題を話したりして関わりを持っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子をこまめに報告・相談して課題の解決策を家族と共に考えている。面会時には本人・家族・職員で一緒に話をしたり、家族との外出・外泊も積極的に勧め、その時の様子を聞き共有するようになっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所や親戚等関わりの深かった方に気楽に面会に来て頂けるような雰囲気作りに配慮している。(挨拶・お茶を出すなど)行きつけの美容院・スーパーなどには家族の協力のもと個別に出掛けて頂いている。	事業所では、利用者の馴染みの美容室等の利用を支援している。感染症の流行においては、オンライン面会等を活用したり、年賀状づくりを支援したりして、馴染みの関係性が途切れることのないよう支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が橋渡し役となって、利用者の関係性が上手くいくように努めている。リビングの席を替えたり、また逆に家事やクラブを一緒にやり共通の話題を作ったりすることでより良い関係が築けるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1番街 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅に戻られた方には時々家族に電話で連絡を取りその後の様子を伺い、外来受診時には立ち寄っていただくよう声を掛けている。また入院先の病院を訪問している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中から個々の入居者の方の思いや希望等お聞きしたことを申し送り時に報告・共有している。小さなことでも本人に意思決定して頂けるような声のかけ方・場面作りをしている。	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者一人ひとりの思いや意向等の把握に努めている。聞き取った意向等は、申し送り時に報告し、共有化を図りつつ、支援に活かしている。意思の表出が困難な場合は、本人の表情や仕草などから把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族や担当ケアマネなどから入居までの生活歴(仕事や趣味等)、入居までの経緯等詳しくお聞きし、入居後もそれまでの生活に少しでも近い暮らしが継続出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の月間目標に「入居者の方からのサインを見逃さない」「入居者の方の『出来ること』を見つけよう」等掲げて職員が意識できるような工夫をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリング・担当者会議の他、必要に応じてカンファレンスを行い、本人はもちろんグループ内の他職種(医師・看護師・PT/OT等)やご家族にも意見を聞きプランに反映している。	事業所では、利用者一人ひとりにあわせた介護計画を作成している。半年ごとに、計画を見直している。感染症の流行下においても、家族等に電話で意見を聞くなど、意向を確認している。また、利用者の心身状況に変化があった際は、随時、計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々のケアを具体的に記録して、職員間で共有するようにしている。担当者会議では必要に応じて記録を見返しながらか介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃から居宅介護支援事業所等と繋がりを持ち、必要な時には継続的にサービス提供ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1番街 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの美容院・スーパーへの買い物など、ご家族や職員と出掛けられる方、移動スーパー「とくし丸」が週1回施設に来て、お買い物を楽しまれている方等がいる。地域のお祭り・文化祭にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にはかかりつけ医について希望をお聞きしている。歯科・皮膚科等の受診も本人の希望に沿って馴染みの病院を受診されている方もいる。	事業所では、入所時の段階で、利用者や家族等の希望するかかりつけ医を聞き取り、法人が運営する医療機関と連携した受診体制を整備している。他の専門科を受診する際は、家族等の協力を得つつ、適切な医療を受診できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックを実施し表情や言動等からも体調の変化に気づけるよう努めている。協力病院の看護師とは密に連絡を取り合い、状況に応じて適切な受診や看護を受けられる連携体制を構築している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して治療が出来るよう病院の看護師・介護職員に詳しく情報提供を行い、早期退院に向けている。入院中は出来るだけ見舞いに掛ける本人を励ましたり、病院職員とも情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化した際の方針について家族の意向を、医師も交えて時間を掛けて伺っている。家族の気持ちの変化にも柔軟に対応出来るよういつでも相談して頂けるようにと説明している。	事業所では、入所時の段階で、重度化や終末期における指針について、利用者や家族等に説明し、同意を得ている。利用者の心身状況に変化があった際は、協力医療機関と連携しつつ、チームで支援に取り組む体制を整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを基に研修を実施している。今後は実践形式の研修(転倒時や窒息時の対応等)を実施して実際の場面で生かせる技術を習得していく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(昼夜)の防火防災訓練を実施している。今年度は地震・津波発生時の避難誘導について具体的に検討中である。また食料の備蓄・災害時用のメニューをグループ内の管理栄養士の協力で作成している。	年2回、地域等の協力を得つつ、日中・夜間を想定した消防訓練を実施している。避難経路の確認や模擬消火器を活用した消火訓練など、具体的に取り組んでいる。また、災害時に業務を継続できるよう、BCPの計画も策定するなどして、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1番街 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方お一人お一人を尊重する気持ちを持って接するよう接遇やプライバシー保護についての研修を実施している。日常のケアの場面で個別にアドバイスをしたり関わり方について話し合ったりしている。	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者一人ひとりの人格を尊重した支援に努めている。本人の立場に立って検討し、随時、個別の気持ちに配慮している。事業所では、年1回、プライバシー等に関する研修会を開催し、サービスの質の向上を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で利用者の方が職員に要望が言いやすい雰囲気作りを心掛けている。意思決定を促すような声かけの仕方を工夫したり言葉での表現が難しい方は表情や行動から職員がくみ取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決めているが、起床や就寝の時間、リビングで過ごしたり居室で過ごしたり等その方の生活のリズムやペースに合わせて柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族にお願いして好みの洋服や化粧品など持参して頂いている。下着や靴下を買いに出掛けて笑顔で戻られる方、行きつけの美容院に毎月のように出掛けられる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえやテーブル拭き、食器の片付け等利用者の方の力に合わせて職員と一緒にやっている。施設の畑で利用者も一緒に収穫した野菜も食材として活用し、食卓での話題として取り上げている。	食事は、下ごしらえや配膳などを利用者と職員と一緒に行うなど、利用者一人ひとりの生きがいに繋がるよう取り組んでいる。敷地内の畑で採れた野菜を活用したり、行事食に和菓子を付けたりして、食事を楽しむことができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の嚥下状態に合わせて食事形態を変えたり、水分摂取を小まめに勧めたり好みの飲み物を用意したりしている。食欲の無い方には時間をずらしたり、量を減らして少しでも食べて頂けるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々の利用者に合わせて歯ブラシ、スポンジ、ガーゼなどを準備し口腔ケアを実施している。個々の能力に合わせて声かけ・介助を行っている。訪問歯科が週1回来所して希望者は治療、ケアを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1番街 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食後によく排便がある方、食事前には行きたい方等、個々のリズムや習慣に合わせて柔軟に対応している。失禁があっても出来るだけ座って頂き、トイレでの排泄習慣を忘れないようにという思いで介助している。	事業所では、排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。把握したパターンにもとづいて、さりげない声かけにより、トイレ誘導を行っている。夜間は、本人の心身状況にあわせて、ポータブルトイレ等を活用し、負担のない排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は食物繊維を多く含んだ食材を使用するよう努めている。便秘気味の方には廊下の散歩等の適度な運動を勧めたり、本人の希望で牛乳やヨーグルトを個別に摂取して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や希望によって夜間や日曜日の入浴にも対応している。個々の希望(ゆっくり湯船に浸かりたい・一日おきには入りたい等)に合わせて柔軟な介助を行っている。	事業所では、週2～3回は入浴することができるよう支援している。利用者一人ひとりの希望に応じて、時間帯や曜日を変更している。利用者の好みのシャンプーや入浴剤を活用するなど、入浴を楽しむことができるよう支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なごみの間やリビングのソファや椅子・畳でいつでも休んで貰えるようにしている。夜間不眠の方は日中の過ごし方を工夫したり本人の希望に合わせて照明を調節したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診日には日頃の様子を詳しく病院に報告している。与薬マニュアルを整えマニュアルに沿って介助ができるよう日頃から職員間で連携している。処方が変わった時は申し送りノートにて全職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事やクラブ活動等にお誘いしたり、洗濯物置みや掃除等の家事をお願いしたり、個々のお好きな事、したい事ができるように支援している。お礼の言葉を伝え、喜びの気持ちを持って頂けるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力を得ながら出来るだけ外出の希望に応じられるよう努めている。介護タクシーを利用して外出される方もいる。地域の方の協力を得ることはまだ出来ない。近所の散歩は職員が付き添い実施している。	事業所では、近隣の散歩など、日常的な外出支援に取り組んでいる。家族等の協力を得て、外泊することもある。感染症の流行下においては、敷地内の庭や畑に出たり、河川敷で季節の花を眺めたりして、外気を感じることができる機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1番街 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にご家族と話し合った上で現金を持たれている方もいる。外出時や「とくし丸」で買い物された時はご自分で支払いをされ、満足そうな表情が見られる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所内の電話はどなたにでも使用して頂けるようにしている。年賀状や誕生日に届く手紙を自室に大切に飾られている方もあり、年末には職員がアドバイスし年賀状を書いて家族に出されている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに温度計を設置し、職員の感覚で室温管理しないように気をつけている。要所に手すりを設置したりソファや椅子を配置して安全に居心地良く暮らせる工夫をしている。お正月・ひな祭り・七夕・クリスマス等季節を感じる飾り付けを一緒に行っている。	共用空間には、大きな窓があり、中庭の様子を眺めることで、四季を感じるができるようにしている。壁面にも、四季を感じる飾り付けを行うなど、季節感を大切にしている。定期的な換気やアクリル板の設置を行うなど、感染症対策にも努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブル席・ソファ・畳の間等同じ空間でも個々の方が居心地良く過ごせる場所があり、日向ぼっこやうたた寝、家事等思い思いに過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使用していた家具や布団等馴染みの物を持ってきて頂けるようご家族にお願いしている。家族の写真を飾ったり、思い出の品を持ち込まれている方もいる。	居室には、家具や衣装ケースなど、利用者にとって馴染みのあるものを持ち込んでもらっている。利便性や安全性等に配慮して、家具の配置も工夫している。また、家族写真や趣味の作品も飾り、居心地よく過ごすことができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の利用者の身体機能に合わせて手すりを設置したりL字ベッド柵に変更してご自分でベッドからポータブルトイレに移動が出来たり、動線を考えた家具の配置を検討している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2番街 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に管理者より理念について説明を行い、理解・共有が出来るように努めている。毎朝の申し送り時には、業務に取りかかる前に出勤職員全員で理念と行動規範を唱和している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町民文化祭への参加、地域の保育所との毎月の交流、秋祭りの御神輿巡行等、地域との関わりは年間を通じて実施している。グループで開催しているふれあい祭りは地域の方と触れ合う良い機会となっている。。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日曜日で月1回介護相談のブースを開設し、フォレスト職員も参加している。来年度には、地元の中学生の職業体験をグループで受け入れる予定である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加されたご家族や地域の方・地域包括支援センターからの意見や要望等を職員で検討し、担当者会議で取り上げプランに盛り込むなど、サービスの質の向上につながるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	要介護認定申請などで市役所に出向いた際には、担当職員に疑問点を質問してアドバイスを頂いたりしてコミュニケーションを取っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止についての指針とマニュアルを定め、定期的に委員会と研修会を開催している。「身体拘束となる具体的な行為」を行わない為に自分達で出来る工夫を考え、実行するよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度はグループ全体で、管理者も含めた全職員が参加する虐待防止についての研修会を実施した。他事業所の職員と話し合い講師の話聞く事で、自分の介護を見つめ直す機会を持つことが出来た。		

自己	外部	項目	自己評価	2番街	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回は研修会を実施し、日常生活自立支援事業・後見人制度について学ぶ機会を作っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約書および重要事項説明書をもって十分な時間をかけて説明を行っている。改定がある時には、重要事項説明書の変更を文書にて報告、質問があれば納得して頂けるよう確りと説明を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは日頃から話しやすい雰囲気を作り思いをくみ取るように努めている。家族の面会時には職員から声をかけ、遠方の家族とは電話やメールを活用し、頂いた意見を業務改善に繋げている。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りやミーティング時に意見を聞くようにしている。新人職員には個別に話を聞くようにしている。出された意見は検討し、前向きに反映させている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年末には業務において特に優秀であった職員は「優良優秀職員」として表彰している。また各職員の得意分野で力を発揮出来るような業務を割り当てたり、意見を取り上げたりする事で労働意欲向上に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修では職員が講師となり、互いの資質向上に努めている。個々の職員に必要な外部研修に参加出来るよう勤務割の工夫等を行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度実施した虐待についての研修会には、他施設の介護職員も参加され、共に学び意見交換をする事でお互いに良い刺激となり、サービスの質の向上に繋がった。			

自己	外部	項目	自己評価	2番街	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず訪問面接を行い、現在の悩みや不安などを直接本人からお聞きするようにしている。入居されて1ヶ月頃にゆとりとお話する時間を持ち、困っていることなど無いかお聞きしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時には十分に時間をかけ説明を行い、質問や要望等にも耳を傾けるようにしている。入居後も面会時には職員から声をかけ、話しやすい雰囲気作りを心掛けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のケアプランを立てる前に本人・家族からしっかりと話を聞き、内容によっては他のサービス利用の検討を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「生きがいを見つけ共に育む」という理念に基づき日常生活の中で共に行うこと、支え合うことを実践している。野菜作り・洗濯畳み・片付け等を一緒に行ったりテレビや新聞の話題を話したりして関わりを持っている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子をこまめに報告・相談して課題の解決策を家族と共に考えている。面会時には本人・家族・職員で一緒に話をしたり、家族との外出・外泊も積極的に勧め、その時の様子を聞き共有するようにしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所や親戚等関わりの深かった方に気楽に面会に来て頂けるような雰囲気作りに配慮している。(挨拶・お茶を出すなど)行きつけの美容院・スーパーなどには家族の協力のもと個別に出掛けて頂いている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が橋渡し役となって、利用者の関係性が上手くいくように努めている。リビングの席を替えたり、また逆に家事やクラブを一緒に言い共通の話題を作ったりすることでより良い関係が築けるように工夫している。			

自己	外部	項目	自己評価	2番街	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅に戻られた方には時々家族に電話で連絡を取りその後の様子を伺い、外来受診時には立ち寄りいただくよう声を掛けている。また入院先の病院を訪問している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中から個々の入居者の方の思いや希望等お聞きしたことを申し送り時に報告・共有している。小さなことでも本人に意思決定して頂けるような声のかけ方・場面作りをしている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族や担当ケアマネなどから入居までの生活歴(仕事や趣味等)、入居までの経緯等詳しくお聞きし、入居後もそれまでの生活に少しでも近い暮らしが継続出来るよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の月間目標に「入居者の方からのサインを見逃さない」「入居者の方の『出来ること』を見つけよう」等掲げて職員が意識できるような工夫をしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリング・担当者会議の他、必要に応じてカンファレンスを行い、本人はもちろんグループ内の他職種(医師・看護師・PT/OT等)やご家族にも意見を聞きプランに反映している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々のケアを具体的に記録して、職員間で共有するようにしている。担当者会議では必要に応じて記録を見返しながら介護計画の見直しを行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃から居宅介護支援事業所等と繋がりを持ち、必要な時には継続的にサービス提供ができるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	2番街	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの美容院・スーパーへの買い物など、ご家族や職員と出掛けられる方、移動スーパー「とくし丸」が週1回施設に来て、お買い物を楽しまれている方等がいる。地域のお祭り・文化祭にも参加している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にはかかりつけ医について希望をお聞きしている。歯科・皮膚科等の受診も本人の希望に沿って馴染みの病院を受診されている方もいる。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックを実施し表情や言動等からも体調の変化に気づけるよう努めている。協力病院の看護師とは密に連絡を取り合い、状況に応じて適切な受診や看護が受けられる連携体制を構築している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して治療が出来るよう病院の看護師・介護職員に詳しく情報提供を行い、早期退院に向けている。入院中は出来るだけ見舞いに出掛け本人を励ましたり、病院職員とも情報交換を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化した際の方針について家族の意向を、医師も交えて時間を掛けて伺っている。家族の気持ちの変化にも柔軟に対応出来るよういつでも相談して頂けるようにと説明している。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを基に研修を実施している。今後は実践形式の研修(転倒時や窒息時の対応等)を実施して実際の場面で生かせる技術を習得していく。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(昼夜)の防火防災訓練を実施している。今年度は地震・津波発生時の避難誘導について具体的に検討中である。また食料の備蓄・災害時用のメニューをグループ内の管理栄養士の協力で作成している。			

自己	外部	項目	自己評価	2番街	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方お一人お一人を尊重する気持ちを持って接するよう接遇やプライバシー保護についての研修を実施している。日常のケアの場面で個別にアドバイスをしたり関わり方について話し合ったりしている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で利用者の方が職員に要望が言いやすい雰囲気作りを心掛けている。意思決定を促すような声かけの仕方を工夫したり言葉での表現が難しい方は表情や行動から職員がくみ取るよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決めているが、起床や就寝の時間、リビングで過ごしたり居室で過ごしたり等その方の生活のリズムやペースに合わせて柔軟に対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族にお願いして好みの洋服や化粧品など持参して頂いている。下着や靴下を買いに出掛けて笑顔で戻られる方、行きつけの美容院に毎月のように出掛けられる方もいる。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえやテーブル拭き、食器の片付け等利用者の方の力に合わせて職員と一緒にやっている。施設の畑で利用者と一緒に収穫した野菜も食材として活用し、食卓での話題として取り上げている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の嚥下状態に合わせて食事形態を変えたり、水分摂取を小まめに勧めたり好みの飲み物を用意したりしている。食欲の無い方には時間をずらしたり、量を減らして少しでも食べて頂けるよう工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々の利用者に合わせて歯ブラシ、スポンジ、ガーゼなどを準備し口腔ケアを実施している。個々の能力に合わせて声かけ・介助を行っている。訪問歯科が週1回来所して希望者は治療、ケアを受けている。			

自己	外部	項目	自己評価	2番街	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食後によく排便がある方、食事前には行きたい方等、個々のリズムや習慣に合わせて柔軟に対応している。失禁があっても出来るだけ座って頂き、トイレでの排泄習慣を忘れないようにという思いで介助している。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は食物繊維を多く含んだ食材を使用するよう努めている。便秘気味の方には廊下の散歩等の適度な運動を勧めたり、本人の希望で牛乳やヨーグルトを個別に摂取して頂いている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や希望によって夜間や日曜日の入浴にも対応している。個々の希望(ゆっくり湯船に浸かりたい・一日おきには入りたい等)に合わせて柔軟な介助を行っている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なごみの間やリビングのソファや椅子・置でいつでも休んで貰えるようにしている。夜間不眠の方は日中の過ごし方を工夫したり本人の希望に合わせて照明を調節したりしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診日には日頃の様子を詳しく病院に報告している。与薬マニュアルを整えマニュアルに沿って介助ができるよう日頃から職員間で連携している。処方が変わった時は申し送りノートにて全職員に周知している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事やクラブ活動等にお誘いしたり、洗濯物畳みや掃除等の家事をお願いしたり、個々のお好きな事、したい事ができるように支援している。お礼の言葉を伝え、喜びの気持ちを持って頂けるようにしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力を得ながら出来るだけ外出の希望に応じられるよう努めている。介護タクシーを利用して外出される方もいる。地域の方の協力を得ることはまだ出来ない。近所の散歩は職員が付き添い実施している。			

自己	外部	項目	自己評価	2番街	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にご家族と話し合った上で現金を持たれている方もいる。外出時や「とくし丸」で買い物された時はご自分で支払いをされ、満足そうな表情が見られる。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所内の電話はどなたにでも使用して頂けるようにしている。年賀状や誕生日に届く手紙を自室に大切に飾られている方もあり、年末には職員がアドバイスし年賀状を書いて家族に出されている方もいる。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに温度計を設置し、職員の感覚で室温管理しないように気をつけている。要所に手すりを設置したりソファや椅子を配置して安全に居心地良く暮らせる工夫をしている。お正月・ひな祭り・七夕・クリスマス等季節を感じる飾り付けを一緒に行っている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブル席・ソファ・畳の間等同じ空間でも個々の方が居心地良く過ごせる場所があり、日向ぼっこやうたた寝、家事等思い思いに過ごして頂いている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使用していた家具や布団等馴染みの物を持ってきて頂けるようご家族にお願いしている。家族の写真を飾ったり、思い出の品を持ち込まれている方もいる。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の利用者の身体機能に合わせて手すりを設置したりL字ベッド柵に変更してご自分でベッドからポータブルトイレに移動が出来たり、動線を考えた家具の配置を検討している。			